

看護 しずおか

令和6年度
Vol.4



特集1

地域住民のため 看護職のための
地区支部活動報告

特集2

～学び・育み・継ぐ～
三職能委員会報告

会員数 22,519名 (令和7年3月1日 現在) ● 保健師 491名 ● 助産師 887名 ● 看護師 20,614名 ● 准看護師 527名



今年巳年なんだねー

KANGO SHIZUOKA 2024 vol.4 ～看護に携わる皆様へ～



公益社団法人 静岡県看護協会

静岡県看護協会

検索

<https://www.shizuoka-na.jp/>

[静岡県看護協会]
お気軽にご利用ください



早いもので今年度も残すところわずかとなりました。会員の皆さまには今年度も本会の活動にご支援・ご協力をいただきましたことに、心より感謝を申し上げます。さて、団塊の世代が75歳以上になる「2025年」を見据えて「地域包括ケアの実現」や「在宅医療推進」に向けて様々な取り組みが展開されてきました。会員の皆様におかれましても、看護協会が掲げた2025年に向けた「看護の将来ビジョン」の方針に基づき各々の領域で活動されてきました。その2025年を迎えた今、静岡県は令和4年の健康寿命が男性73.75歳・女性76.68歳で見事に全国1位となりました。この成果が続きますように「人々の元気を創るライフサポーター」として力を尽くしてまいりましょう。

ご承知のとおり、いよいよ人口減少時代に突入しました。医療ニーズの変化や少子化に伴う医療の担い手の減少などがある中、昨年4月に医師の働き方改革が開始されました。併せて地域医療提供体制の改革やタスクシフト/シェアの推進などの取り組みや情報の連携に対する医療DXが進められています。看護の現場においては、人手不足に加えて夜勤の担い手不足が深刻です。そのような中、看護現場におけるDX効果検証事業

が令和7年度看護関係予算概算要求に組み込まれました。看護業務の明確化や効率化に向けた取組の推進や、明確化に向けての取組みを加速化させる必要があります。そして、今こそ看護の将来を左右するような政策を実現するために職能団体として強い結束が必要です。どうぞ皆さま2025年度もご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

寒暖定まらぬ時期ですのぐれぐれもご自愛ください。



静岡県知事へ新年のご挨拶

令和5・6年度 特定行為研修修了者交流会報告

静岡県内の特定行為研修修了者は266人(2024年3月時点)、その就業場所は病院239人、訪問看護ステーション18人、診療所18人、介護福祉施設2人です。県の医療計画では2029年までに877人を目標としていることを踏まえ、特定行為研修修了者の育成と地域でいきいきと活動するための支援を実施しました。県内の東・中・西部地区3会場で開催し、2年間で54施設、130人の特定行為研修修了者とその看護管理者にご参加頂きました。

交流会では施設の管理者と共に自施設のビジョンを共有し、アクションプランを一緒に作り上げることが目標です。作成したアクションプランは翌年実践報告して頂き、県内の特定行為

研修修了者で共有しました。また、訪問看護ステーション看護管理者等を対象に、在宅医療の医師の視点から特定行為研修修了者と共に働くメリットについて、また地域医療・在宅医療の中で看護師の育成に取り組む訪問看護ステーション管理者から報告がありました。

研修会参加者からは「看護部長とビジョンについて話す機会がもてよかった」「他施設の取り組みを聴くことで元気をもらい一人ではないんだと思った」「今後は連携を深めアイデアをだしていきながら、育成や活躍の場を作っていきたい」等の意見がありました。看護協会は地域で特定行為研修修了者が笑顔で活動できるように、今後も応援します。

報告：青木・土屋



STEP5 アクションプランを作成する				
	年月	6月7-5月	7月	9月
① やること(全体)		2か月定期看護部会継続(看護部参加)意見交流会		
目標値				
② やること(①について)		特定看護部活動院内ルールの作成 ①現状確認・役割分担 ★医療安全との連携・医事連携力形成	②進行状況確認	③進行状況意見交換
目標値				
③ やること(②について)		病院説明会の充実・院内リポート活動の再検討	病院説明会実施	
目標値		スペシャリストを目指す		
④ やること(③について)		院内教育研修の企画に特定看護部が参加し活動の場を拡大① 新人研修参加(スタートアップ・多量課題)	②副主任研修参加	
目標値				
⑤ やること		市町村との連携強化 病院支援室との連携・市町村の合同会議 に特定看護部会の意見を報告する場を作る(訪問看護部会合同会議)		看護連携事業(合同研修会)へ参加



会員様の個人情報漏洩のおそれに関するお知らせとお詫びについて

当協会が運営している研修管理システムにおいて、2024年12月4日に発生したサーバ不正アクセスに対し調査した結果、個人情報漏洩の痕跡は見つかりませんでした。現在は安全な状態を確保されました。2011年4月1日から2024年12月4日の間に、研修お申込フォームから送信して下さった申込者情報のメールアドレスへその報告とお詫びの連絡をいたしました。(詳細はホームページ)

問合せ：専用ダイヤル050-1725-0300(サーバ管理会社：株式会社サンロフト)

看護の変遷と共に歩んだ看護

臨床看護から看護教育・看護管理へと、看護師を目指した時には想像もできなかった道を辿ることになりました。節目節目を振り返ると、人に恵まれた看護師人生だったと思います。

管理の究極の目標は「人材育成」

「育てるより育つ環境作り」

管理者として尊敬している看護部長の下で、思いっきり看護副部長としての仕事をさせてもらえた。従来の卒後教育計画を軸に「経年別・職位別・職種別」に体系化した。系統的教育と無意識に学習し実践に活かしていく学び方がある。育つ環境作りは中堅看護師のネットワークと考え、係長が主要メンバーである「臨床指導者会議」を月2回開催とし、2回目は看護論やクリティカルシンキング等の研修会にした。共に育つ事を目指した当院独自の「プリセプター・チューターシップ混合型新人指導体制※」は、係長達が会議時間を活用し、完成させた体制である。

看護部のキーワードは「見える看護・見せる看護」

「看護師は看護をしよう」

看護部長に就任。病院職員には看護師本来の業務への理解が薄く、医師との仲介役としての期待が大きいと感じた。看護へのクレームは、面会の機会が少なく、患者の状態や看護が見えていないご家族からだった。看護の役割を意識的に見えるようにする事が、スキルミックスのチーム医療を推進し、患者・家族の安心と満足に繋がると考えた。「看護の定義」を明確に表現し、看護師長会で賛同を得て、キーワードを「見える看護・見せる看護」とした。その後導入された新看護体制7:1は、看護師の直接ケア時間の評価である。「看護師は看護をしよう」は、経営への貢献であることもアピールできた。検査技師の採血室運営、薬剤師のミキシングや持参薬管理などが実現した。各部門の課長達の看護への理解と業務改善への努力が無ければ叶わなかった。2つのキーワードは、今でも引き継がれている。

看護部長から副院長に・・・

組織が動くのは「理念とデータとの共有」

日本赤十字社が看護師副院長制度を導入して2年目に辞令をいただいた。院長から「病院の糊(のり)になって欲しい」と、コメディカル部門の管理を託された。看護部に偏ることなく、院内外を俯瞰し、理念の下での活動を意識した。情報が変われば、行動は変わる。客観的データを活用し理念を軸にし



望月 律子

た活動が強い組織を作る事を確認した。研修医制度施行、EPAによるフィリピンからの看護師候補者受け入れ※、院内託児室開設、医療安全室開設や新病院開設準備など取り組んだ。現場の声を活かした「患者本位」のチーム医療の推進に努めた。看護師副院長は常設ポストになった。

静岡県看護協会会長・

静岡県訪問看護ステーション協議会長就任

就任最初の年に、公益社団法人に移行し、翌年には訪問看護ステーション協議会も全国に先駆け「法人」になった。地域包括ケアシステム推進、地域連携に動き始めた時代であり、行政や他職種との関係を深め、厚労省・関連職種のホームページを常に閲覧し、協会運営に活用した。日本看護協会主催「看護がつなぐ地域包括ケアフォーラム」の開催地に選ばれた時は、アクティビティ浜松に参加者900人を集めた理事や会員の力に感服した。静岡新聞「窓辺」に執筆させていただいた時も地域の皆様から反響があり、看護職は地域に必要な職種であり、看護職の質が地域住民の療養生活の質に影響する事を、病院勤務の時よりはるかに実感する日々だった。看護政策力が問われる時代に、地域のあらゆる場で働く看護職が協働する事が、超高齢社会で働く看護職の姿であると思える。退任後は大学で「在宅看護学」を担当し、地域で活躍する人材育成に関わる機会をいただいた。ゼミ生の中から新卒訪問看護師が誕生した。ミレニアル世代の学生達が、少子超高齢社会の看護をどのように担って行くのか見守って行きたい。

思い出を辿れば限りなく、共に歩んだ方々のお顔が浮かんでいきます。仕事と家庭の両立が最も苦しい時に「ママお仕事行きなさい」と後押ししてくれた5歳だった長女は、結婚式場で「ママは働くママでした」と紹介しました。継続できたのは家族や周囲の理解と支援そして「看護を続けたい私」だったと思います。

本誌への執筆の機会を作っていただきました協会の皆様、思いのままの文章を読んでいただいた皆様に、心から感謝申し上げます。

※ じほう: HANDS-ON, 2007, Vol2, No5. 新人も指導者も育つ環境作り

※※ 医療経済白書: EPA外国人看護師受け入れの現状と成果

地域住民のため 看護職のための 地区支部活動報告

地区支部活動の目的は、看護を通して保健・医療・福祉の向上に貢献し、地域住民の健康サポーターとして健康維持増進に寄与することです。会員の資質向上のための研修会や地域住民への啓発活動を行っています。

賀茂地区支部

支部長 後藤 互

支部活動は6月講演会・7月災害看護地区研修を実施しました。7月の受講者18名は、4地区の防災訓練に参加し、計127名の住民に向け、災害時身の回り品を使った応急処置の指導を行いました。まちの保健室Ⅰ型1回(参加者10名)、Ⅱ型1回(参加者71名)開催。フレイルに関して多くの方が興味を持ち、足指力測定で、日頃運動を継続的に行う必要性を自覚されていました。来年度も会員皆様のご協力を得て、地域住民のための支部活動に取り組みたいと考えます。



熱海・伊東地区支部

支部長 青井 久江

2024年度は地域のイベントがCOVID-19の流行前に戻って開催された年でした。そのため、熱海・伊東地区支部の活動も例年に戻って熱海市の「健康まつり」への参加や「まちの保健室」の定期開催をいたしました。また、久しぶりに地区研修を開催し、近隣の医療施設から20名を超える参加をいただき「高齢者に起こりやすい皮膚トラブルとケアのポイント」について学習機会を持ちました。今後も地域住民や医療機関同士の交流を大事に活動していきたいと思います。



東部地区支部

支部長 大沼 以恵

今年度は担当した「看護の日イベント」が大盛況で、委員一同達成感でいっぱいになりました。「まちの保健室」は大型スーパーの開拓で多くの方への支援、看護協会のPRができ「実践報告会」では実践の工夫や課題の共有ができました。「災害看護地区研修」は地域密着型の災害支援を啓発できました。「看看連携推進」も益々拡充した活動となりました。地域の保健医療・福祉の向上を含め看護職の資質向上に今後も取り組んで参ります。

令和6年度 看看連携 東部地区大会
つなげよう！
みんなで考えよう！
講演
医療法人社団律昌会さくら病院
病院長 安達 昌子 先生



富士地区支部

副支部長 城内 麻紀

今年度は「まちの保健室Ⅰ型」10回・「救護」11回・「災害看護地区研修」「つなごう看看連携@富士・富士宮」を実施しました。「つなごう看看連携@富士・富士宮」は、訪問看護ステーションの方と協働し開催しました。顔の見える関係性を築き今後に繋げていくこと、それぞれが働いている場所や立場で考え方は違うため、お互いを理解することの重要性について認識できるよい機会となりました。来年度も交流を大切に、よりよい地域活動を行っていきます。





静岡地区支部

支部長 岩崎 厚子

2024年度は、毎年開催の「あざれあメッセ」以外に、ツインメッセ開催の「メディメッセージ」などへの参加協力ができました。例年実施の「まちの保健室」は、拠点場所増設にて来年度は、規模拡大を図る予定です。「看護教室」は、開催場所を固定し、年間開催予定の確立を図りました。「災害看護地区研修」は、地域団体や行政と共に計画時点から介入し、総合的に実施しました。来年度は、訪問看護ステーションとの連携強化をさらに図るべく活動したいと考えています。



志太榛原地区支部

支部長 山梨 美鈴

予定どおり「まちの保健室Ⅰ型・Ⅱ型」「災害看護地区研修」「看護教室」を開催できました。まちの保健室、看護教室では特に子育て支援やマタニティスクールを行う中で、少しの不安やちょっとした疑問を気軽に相談する場所の提供ができていたと考えられ、これからも大切にしていきたいです。また、病気とともに安心して地域で暮らすための情報発信の場として、訪問看護ステーション協議会との連携を継続していきます。



中東遠地区支部

支部長 増田 良江

「まちの保健室」は、訪問看護師をはじめ多職種の方も一緒に参加していただき、健康相談を実施しました。測定値などから、自分の健康について関心を持っていただきました。「地域講演会」は患者家族の方から質問があり「自分らしく生きるために」医療職と共に考えました。「災害看護地区研修」は、講義、演習がすぐに活用できる内容でした。訪問看護ステーションと協働研修の開催や、各学校に出前講座を届けています。地域の方に直接関わることで、求められていることも実感できます。今後も、地域の方とつながる活動をしていきます。



西部地区支部

支部長 江上 直美

2024年度は予定通り「災害看護地区研修」「ACP研修」「感染対策の基本研修」「やさしく学ぶ心不全患者の看護研修」「せん妄の看護研修」を実施しました。「看護教室」「まちの保健室」「出前授業」「救護」は、地域のニーズに応え積極的に実施しました。訪問看護ステーションの方と協働し「まちの保健室」や「クレームを活用した地域連携に関わる専門職のスキルアップ研修」を行い、地域の方々の健康増進に向け支援しました。今後も役員みんなで楽しく活動していきます。



保健師職能委員会

委員長 杉山 眞澄

保健師職能委員会は、行政と産業、健診機関に働く7名の保健師で活動しています。令和6年度の活動目標は(1) 地域包括ケアシステムの構築や健康危機に対応できるよう、知識や技術が向上する(2)異なる職場環境で働く保健師等看護職の情報交換と交流ができる(3)保健師職能の会員数の増加です。

資質向上の研修会を令和7年1月に「苦手を乗り越えよう～メンタルヘルスの相談と援助」というテーマで開催し、16名が参加されました。静岡県障害福祉課の保健師山本愛さんの講演後に、産業の場と母子保健で遭遇するメンタルヘルスに関する2事例を参加者同士で事例検討会を行い、復康会・社会復帰事業部の澤野文彦氏より御助言をいただきました。参加者からは、対象者の生活を知ろうとすることや制度改正の内容を知ることができた等の学びを得ることができました。

保健師職能交流会は、令和6年7月に「ここでしか聞けない保健師のシゴトpart.3」として、Violas代表の久保田さん、静岡市の地域包括支援センター長の柏木さん、レセ・スタッフ株式会社の東さん、静岡県立吉原林間学園の小林さんから、仕事に就いた動機や各職場のリアルな活動についてお聞きしました。14名の参加があり、参加者同士の交流も行い「保健師としての働き方が沢山あることを知った」「視野が広がった」という感想の他に「参加者同士の情報交換の時間をもっと欲しかった」との声が聞かれました。

他の職能との「3職能合同交流会」を10月に開催しました。今年度は、年頭に石川県で発生した地震への対応もあったことから「災害に備えて互いの役割を理解し、つなぐ看護を考える」というテーマで開催し、46名の参加がありました。静岡大学防災総合センターの岩田孝仁教授より「想像力の欠如に陥らない防災」というテーマで講演していただき、その後に各職能からの活動を報告していただきました。参加者からは「防災の講演はとてもためになった」「受援体制、他の職種の仕事内容を知ることができた」等の感想がありました。

目標である会員拡大に関しては、新たに保健師職能パンフレットを作成し、研修会や交流会の他、行政保健師の集まる会議等の場に出向き、積極的に入会を勧める働きかけをしています。次年度は多くの保健師に入会していただくと共に、若い保健師への基礎研修などにも力を入れた活動を目指していきたいと思います。



保健師研修会

助産師職能委員会

委員長 滝澤 文恵

助産師職能委員会は、県内の東中西部の施設から7名が選出され活動しています。昨年度と今年度は、助産力の向上と災害に備えることを中心に研修会を企画してきました。7月に助産実践能力向上研修「CTG」を順天堂大学の田中利隆先生にご講義いただきました。事例を基にレベルの判断などを行い、実践につなげるものとなりました。9月には災害研修part2として「災害に備える～知・技・動～」をテーマに研修を行いました。小児周産期リエゾン看護師の宇佐美ゆか看護師から災害時の役割と活動について、防災士も持つ稲葉由子助産師からどのような連携や動きが必要となるかお話ししていただきました。12月には日本看護協会から井本寛子常任理事から産科管理者に向け「社会が求める助産師育成」について元気の出る力強い講義をしていただきました。令和7年度は、災害に関するまとめの研修と、助産実践能力向上のための研修を2つ企画しています。国の様々な計画や方針に助産師の言葉が多くなってきました。病院ではなく地域で健康に過ごすためには「予防」が重要と言われています。国による女性の健康づくりの推進に、安心して妊娠・出産するための支援に加え、働く女性の健康管理やライフステージにあった教育活動にも助産師の力が必要となってきます。混合化した病棟で自分たちの役割や力が十分発揮できない環境もあるとは思いますが、知識と技は常にブラッシュアップしなければいけないと思います。研修で学びを深め、仲間も作り生き生き働けるように活動していきたいと考えています。令和6年度職能委員会で背中に大きく「助産師」と入った濃い青色Tシャツを作りました。研修やイベントの際着用しています。見かけましたら気兼ねなくお声掛けください。



助産師研修会

保健師・助産師・看護師の三職能がそれぞれの専門性を深め、多職種と連携・協働しながら活動を展開しています。令和6年度の重点活動や課題について報告します。

看護師職能委員会I(病院領域)

委員長 佐々木 菜名代

看護師職能委員会I(病院領域)は、県内の病院に所属する7名の委員が精力的に活動しています。2024年度は活動目標に基づき以下のような活動を行いました。

准看護師進学支援交流会では、昨年度までの内容に加えて、進学経験がある先輩にお越しいただき、交流の機会を持ちました。参加者の方々の疑問や不安などそれぞれの思いに丁寧に回答いただき、有意義な時間を持つことができました。後日「交流会に参加したことをきっかけに進学を決意した」という嬉しいお便りを参加者の方からいただきました。

外来看護師交流会は昨年度同様、2回シリーズで実施しました。講師の塩田美佐代氏から、外来看護師の役割拡大に関するヒントや日々の実践に対する承認をいただき、すべての参加者がモチベーションを高め、目をキラキラさせながら帰っていく姿が印象的でした。2回目の交流会では、1回目以降に実践した自施設での取り組みを共有しました。また、前年度の参加者2名にも交流会参加後の取り組みを発表いただき、本交流会での学びや気づきが、各施設の外来における実践の変化に結びついていることが実感できました。来年度からは、管理者の方々も参加対象者に含め、ますます外来看護を熱く盛り上げていきたいと考えているところです。

他職能との合同交流会も実施しました。看護師職能Ⅱとの合同交流会では、アロマテラピーの演習も行いながら、患者さん、そして私たち自身の癒しについて考え、体感しました。三職能の合同交流会では、被災地における各職能の実践報告を共有し、災害に備えて、互いの役割の理解や、つなぐ看護について考えました。

職能委員会の任務は「職能上の問題を審議し、会長に助言する」こととされています。来年度も、交流会やさまざまな機会を通して、看護師職能が今後取り組むべき課題の整理や、現場の意見の集約に努めていきたいと思います。



准看護師進学支援交流会



外来看護師交流会

看護師職能委員会Ⅱ(施設・在宅領域)

委員長 戸田 美也子

看護師職能委員会Ⅱ(施設・在宅領域)は、高齢者施設・訪問看護ステーション・看護大学・クリニック等の所属する7名の委員で活動しています。領域が広いことから、色々な立場での意見が集約される場となっています。令和6年度の目標は(1)地域包括ケアシステムの中でその人らしく“生きることを支える”看護職の育成(役割を理解し実践力の強化)(2)施設・在宅(訪問看護・クリニック等)における看護師同士の更なる情報交換・連携を推進していくとしました。

その中で、研修後やクリニックに向けたアンケート結果を丁寧に拾い上げ、分析した結果「最新の看護(医療)知識や技術を知りたい」といったニーズが多いことがわかりました。令和6年度は、それらにこたえる意味で3回の研修を企画しました。第1回目は「最新の医療的処置・ケアを学ぼう(今の知識・技術大丈夫ですか?)」をテーマに、緩和ケアや皮膚排泄ケアの認定看護師・リウマチケア看護師を講師に招き知識のアップデートに努めました。2回目は昨年同様に、看護師職能Ⅰとの合同研修を開催し、内容は「看護を切れ目なく提供するための知識と役割～本人の生きさを支えるために～」講師は山梨県立大学看護学部教授(がん看護専門看護師)前澤美代子氏をお招きしました。

3回目は「あなたの人生を変える睡眠の法則～質の良い睡眠で毎日が充実!～」をテーマに良質な睡眠がいかに大切であるかを、ユークロニア株式会社代表 作業療法士の菅原洋平氏から学び、今まで自分が持っていた睡眠に対する知識を根底から覆された内容でした。

上記の研修はアンケート結果から、どれも、大変に満足度が高いものでした。令和7年度は、要望に応えることができなかったテーマ「高齢者に対する薬について」「増加している心不全について」「糖尿病の最新情報」等を予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。



看護師職能Ⅰ・Ⅱ 交流会

人の一生を支える看護職

看護職の仕事は傷病者や妊産褥婦の療養上の世話をしたり、診療の補助を行うことですが、病院や診療所だけでなく、訪問看護ステーションや福祉関連施設・企業・行政などの活躍の場は広がり、看護職に対する期待も大きくなっています。そこで、県内の様々な場所で働く看護職を紹介します。

透析患者さんと共に30年を経て



医療法人 優仁会
さなるサンクリニック

山口 慶子
颯田 佳代子
内山 真波

私たちは急性期病院での透析導入後、維持透析を行う患者さんの一生に責任を持って治療したいというクリニックの立ち上げ理念に共感し、この30年間、患者さんおよびその家族と関わってきました。患者さんの高齢化が進む中で、老々介護・要介護・独居・貧困など、在宅療養が困難な方々の割合が増加しています。そのため、各患者さんの生活環境や個人情報に深く関わらざるを得ない状況です。これらの問題に対応するために、家庭訪問や家族との面談、電話での情報交換を行っています。その結果、一日がこれ

らの対応だけで終わってしまうことも多々あります。私たちは、患者さんがその人らしく生きられるように寄り添い支えることを目標にして努力してきました。これからも、困難な課題に対して患者さんの視点に立ち、真摯に取り組んでいきたいと思ひます。



生涯現役を目標に



つどいのおか
デイサービス
山田 峰子

長期間療養中であった父の勧めで看護師を目指しました。静岡県立中央病院(現 静岡県立総合病院)で看護師としてスタートしました。結婚して子育てしながら37年間勤務しました。様々な病棟を経て、緩和ケア病棟で定年を迎えました。定年後、介護老人保健施設の池田の街に就職しました。これまでの経験とは違った環境で戸惑うこともありましたが、一方で、患者様の看取りや家族様との対応など、緩和ケア病棟での学びが活かされることも多々ありました。

70歳の定年後は、出会いに恵まれ、デイ

サービスに勤務しております。最高齢104歳を筆頭に平均年齢87歳の元気な利用者様に生きる力を貰い、毎日楽しく過ごしております。また、患者様とのコミュニケーションの学びを、25年間ボランティアに参加し、継続できていることも良い経験に繋がっております。これまでのキャリアで支えてくださったスタッフの皆様、多くの学びを与えてくださった患者様・ご家族の皆様との出会いに感謝し、生涯現役を続けられるよう、健康に留意してまいります。

健康保険組合の保健師として



ヤマハ健康保険組合
松浦 真由美

以前は行政の保健師として働いていましたが、10年前に縁あって産業保健であるヤマハ健康保険組合に勤務しています。グループ会社を含め約5万人の加入者がいて、健保組合での保健師の仕事は、保健事業の企画・監修・実施から、事業所にいる保健師との連携など多岐にわたります。特に取り組んでいるのは適正な医療の推進、そのための重症化予防事業と特定保健指導です。世間には「メタボ」や「特保」という言葉が広まりましたが、いざ自分が対象となるとやりたがらない方が多く苦戦しています。からだの不

調も無く、生活にも不満が無い方は減量には前向きでなく、エビデンスを示すよりも「痩せるとかっこいい」「あの人も痩せた」「みんなで」「今がチャンス」など心くすぐる言葉を並べ、あの手この手を考えています。企業にとって従業員は大切な人材ですので、健康で高い生産性を維持し少しでも長く働いてもらうために、これからも支援していきます。



第13回静岡県看護学会

テーマ「いのちと健康 暮らしを支える看護」

教育研修部 鈴木 美恵子

第13回静岡県看護学会は1月11日(土)に「いのちと健康 暮らしを支える看護」をテーマとして開催いたしました。対面とWebのハイブリッド形式で約400名の方にご参加いただきました。会場の300席は開会から閉会までほぼ満席でした。また、専門職としての研究活動を知る機会として、今回から学生の参加が無料となりました。

基調講演では石井美恵子先生が、様々な災害医療活動の体験を通して「災害時」に、いのちや尊厳をまもるための看護支援を実践できるように「平時」からの看護実践が大切であることを熱く語られました。

教育講演で福井小紀子先生は、2040年問題や静岡県との研究結果から「DXを活用して看看連携・多職種連携の強化」について、わかりやすく語られました。



一般演題は、研究報告14題・実践報告28題を合わせて42題でした。発表方法は、口演17題・示説25題(2会場)で、さまざまな取り組みが報告され、活発な意見交換が行われました。

アンケート結果から、2講演の満足度は高く「看護の本質を考える良い機会となった」「タイムリーな講演であった」などのご意見をいただきました。一般演題は「関心のある内容が多かった」「若手の新鮮な発表がよかった」「実践報告は取り組みのヒントになる」「皆さんの取り組みがすばらしい」などの評価が多くありました。企画・運営担当の学術研究推進委員会では、看護職の学会発表を支援しています。その一つとして「はじめての看護研究」「はじめての学会発表ー効果的なプレゼンテーションを学ぼう」の研修があります。ぜひ、研修後に研究活動をスタートしてください。開催ごとに演題数も大きく伸びています。

盛会のうちに学会を終えることができ、本学会の開催にご尽力いただきました講師・座長・演題発表者をはじめ、ご参加の皆様、運営スタッフ等本会の開催にかかわったすべての皆様に感謝申し上げます。



第14回静岡県看護学会

令和8年1月10日(土)グランシップにて開催予定

演題募集：令和7年8月1日から8月15日まで

働き続けられる 職場づくり推進委員会 研修報告

「健康でいきいき働き続けられるために」

～フェムケアについて理解を深めよう～

開催日：令和6年12月8日(日) 参加者63名



講師：福井トシ子氏 国際医療福祉大学 大学院 副大学院長

「Well-being」や「幸せであること」について学びました。「Well-being」とは、WHO憲章による「健康の定義」において「病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること(日本WHO協会訳)」とされています。「Well-being」は、医療や看護、社会福祉の現場でよく使われる言葉です。しかし、最近では①多様性を認める社会②人材確保③SDGsの一部に組み込まれている④働き方改革の4つの社会的因子が背景となり、様々な場面でも使われるようになってきました。

また、ポジティブ心理学の「幸せだから成功する」という「ハピネス・アドバンテージ(幸福優位性)」の考え方を実践することで日常を良い方向に変えることができます。さらに、女性の社会進出やジェンダー平等の観点から女性の健康をサポートする取り組みとして、フェムケアが重要視されていることを学びました。

事例報告：鳥羽山睦子氏 社会福祉法人聖隷福祉事業団保健事業部

レディースクリニックにおけるPMS(月経前症候群)や、PMDD(月経前不快気分障害)・月経困難症・更年期障害等によるカウンセリング事例が紹介され、ポジティブシンキングによって認知と行動が変えられることを学びました。

グループワークでは、働き続けられる職場をつくるための看護師の健康支援についての行動目標を立案しました。「女性のライフステージを理解し、フェムケアについて話しやすい職場にする」「ポジティブシンキング、自分の身体を大切にしたい働き方をする」などがあがりました。いきいきと働きつづけるために「Well-being」と自分自身の幸せについて考える楽しい研修でした。

令和6年度静岡県版看護業務効率化アワード2024 表彰式・報告会を開催しました

令和7年2月1日(土)にアワード表彰式・報告会を開催しました。今年度は2年目の取り組みとなり、昨年度より応募数が16題と増えました。選考の結果、下記のとおりになりました。報告会は、昨年度より多い95人が参加しました。静岡県内の看護職の効率化に向けた意識の高さもわかる結果となりました。

報告会・ポスターセッションでは活発な意見交換が見られ、来年度に向けての取り組みを模索している様子がありました。来年度も事業を継続する予定です。皆様の取り組みの応募をお待ちしております。

最優秀賞：静岡市立静岡病院

優秀賞(2題)：浜松医科大学医学部附属病院

社会福祉法人聖隷福祉事業団 総合病院聖隷浜松病院

特別会長賞：医療法人社団真養会 介護老人保健施設 おおひら



令和7年度 地域包括 ケアフォーラム

日時：令和7年5月24日(土)13:00～16:00(予定)

会場：しずぎんホール・ユーフォニア アゴラ静岡8階

第1部：令和6年度 看看連携を基盤とした地域包括ケア推進支援事業活動報告(4題)

第2部：県民と共に考える健康づくり(仮)

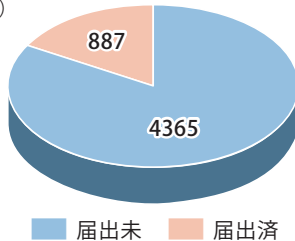
離職時届出の実施状況

令和4年度の静岡県の看護職数は44,510人、離職率11.8%でした。このことから年間5,252人が離職していることがわかりますが、この年の離職時届出数は887人(16.9%)でした。(グラフ1)

令和6年度 県内の病院170施設の看護代表者対象の調査結果より、回答のあった130病院における離職時届出の実施状況(複数回答可)は、(グラフ2)の通りでした。(有効回収数130枚 76.5%)

「届出を実施または指導している」の回答は120病院(92.3%)で高率でしたが、「届出票の配布をしていない」の回答は21病院(16.2%)でした。

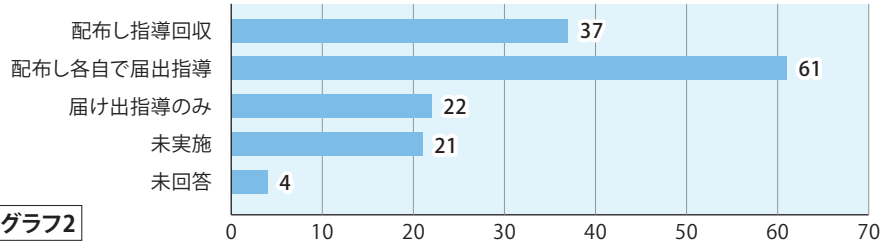
届出の状況
(令和4年度)



グラフ1

調査結果(令和6年度)

(複数回答可)



グラフ2

春は異動の多い季節です。届出登録にご協力をお願いいたします。



看護師等の届出サイト

とどけるん

ナースセンターでは届出登録をいただいた方の中から、就業していない方や求職中の方に連絡し、お仕事探しのお手伝いをしています。お引越しをされる際も、ナースセンターへもご連絡をお願いいたします。また、ナースセンターは全国組織です。他県へ転居される場合もご連絡をお願いいたします。

～お知らせ～

※相談・研修は看護職であればどなたでも受けられます

移動相談(予約:不要)

感染症感染状況により変更することがありますので、ホームページやお電話等で事前に確認をお願いします

県下16のハローワーク等に看護職の就業相談員が外向き、就業についてご支援します。お近くの会場にお出かけください。新年度から開催時間の変更があります。最新の情報はホームページで確認してください。

同時開催のミニ相談会(湖西・浜北以外)への参加ご希望の施設は、ハローワークへお声掛けください。

	下田	伊東	三島	沼津	富士	御殿場	清水	静岡	焼津 (Biviキャン)	島田	掛川	磐田	浜松	湖西	浜北	細江
4月		22日	22日	16日	8日		21日	9日	11日		21日		9日	22日	4日	
5月	27日			21日	13日	27日		14日	9日	20日		20日	14日			27日
6月		24日	24日	18日	10日		16日	11日	13日		16日		11日	24日	6日	

☆令和7年度 未就業者再就業研修予定 全7回計画 1～3回の予定を紹介します

実施施設	実施期日	問合せ・申込先
静岡県看護協会	5月28日(水)・29日(木)・30日(金)	中部(本所) TEL 054-202-1761
NTT東日本伊豆病院	6月18日(水)・19日(木)・20日(金)	東部支所 TEL 055-920-2088
聖隷研修センター 浜松リハビリテーション病院	7月 3日(木)・ 4日(金)・11日(金)	西部支所 TEL 053-454-4335

悩みは誰かに話しましょう

話した内容が他の人や職場に伝わることはありません。お気軽にご利用ください。

○ナースセンターは悩み事相談電話窓口を設置(新人専用の悩み相談電話もあり)しています。月～金曜日 9:00～16:00

TEL **054-202-1780**(悩み専用ダイヤル) 新人専用 **090-2183-8734**(はなしてみよう)

✉ メールでも相談できます nayamishido@za.tnc.ne.jp

(公社)静岡県看護協会 静岡県ナースセンター(相談時間9:00～16:00 本所のみ火・水・木曜日9:00～18:00)

本 所: TEL 054-202-1761

東部支所: TEL 055-920-2088

西部支所: TEL 053-454-4335

下田相談所(毎週木曜日): TEL 080-2650-0327

天竜相談所(毎週火曜日): TEL 080-2650-0237



Information

令和6年度 第4回 定時理事会 令和6年12月17日(火)

【協議事項】

- ① 令和7年度 静岡県看護協会 重点事項(案)
- ② 令和7年度 静岡県看護協会生涯学習支援基本方針・生涯学習支援計画(案)
- ③ 役員(理事・監事)損害賠償責任保険に係る保険契約の内容について

【報告事項】

- ① 令和6年度会費納入状況
- ② 令和7年度自民党県連・厚生問題対策連絡協議会への要望事項
- ③ 令和7年度日本看護協会名誉会員・会長表彰候補者の推薦について
- ④ 令和7年度年間行事計画

令和7年度 日本看護協会通常総会・2025年度全国職能別交流集会

通常総会 日時:6月11日(水) 9:30~17:00
交流集会 日時:6月12日(木) 10:00~15:30
場 所 幕張メッセ幕張イベントホール、東京ベイ幕張ホール
一般会員の通常申し込み期間:3/4(火)~4/30(水)

プログラム最新版は公式ホームページをご確認ください。

URL : <https://www.nurse.or.jp/>

問い合わせ

メッセトラベルサービス「日本看護協会総会デスク」
TEL 043-296-0551 E-mail mts_info@m-messe.co.jp

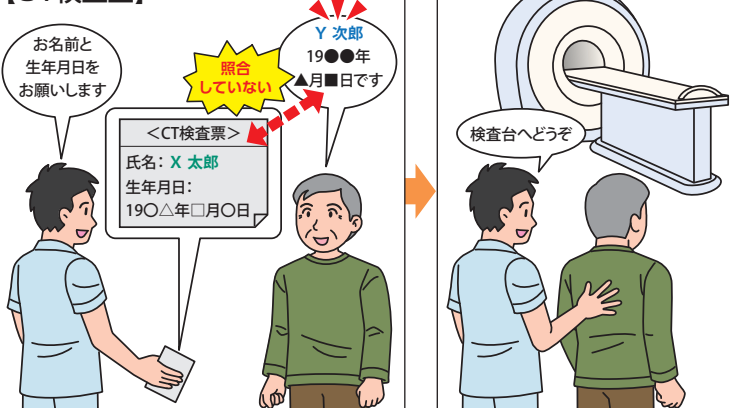
医療安全情報 2024年度 第4弾

照合の未実施による誤った患者への検査・処置

検査や治療・処置の際、患者に氏名等を言ってもらったが、医療者が手元の情報と照合しなかったため、誤った患者に実施した事例が報告されています。

事例のイメージ

【CT検査室】



事例が発生した医療機関の取り組み

- ・患者に氏名と生年月日など2つの情報を言ってもらい、医療者側の情報(電子カルテの画面など)と照合する。

上記は一例です。自施設に合った取り組みを検討してください。

参考 公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療安全情報 No.195

クイズに答えると、抽選で10名様にQUOカードが当たる!

クイズ

★★★ Quiz ★★★

問題

助産師職能委員会で作成した
Tシャツは何色ですか?

令和6年度「Vol.3」のクイズの答え: 3回

当選者

きつね様・なおちゃん様・加藤 衣織様・
とろろこんぶ様・福田 晴香様・ぎりん様・
川上 紀子様・河島 剛様・増田 智美様・
安積 香織様

応募方法

メールに①答え②氏名③所属④電話番号⑤郵便番号⑥住所⑦看護しずおかの感想⑧看護協会へのご意見をお書きのうえ、下記宛にお送りください。正解者の中から、抽選で10名の方にQUOカード(1000円分)を差し上げます。当選者は「Vol.1」に掲載します(ペンネーム可)

※今年度からメールのみの受付となります

■メールの宛先

kango@shizuoka-na.jp
または二次元コードから

応募締切日 令和7年4月25日(金)



あなたの「推し活」

休日に温泉めぐりで
温活中♨

ペンネーム: 温活

写真の応募



已年の
息子は
「コーン」と
仲良し♪
ペンネーム: 佳美



公益社団法人 静岡県看護協会

〒422-8067 静岡市駿河区南町14-25 エスパティオ3階
TEL.054-202-1750/FAX.054-202-1751 編集責任者: 松本 志保子

令和7年3月25日発行